

## 令和7年度第1回広島市廃棄物減量化・資源化等推進審議会 議事要旨

### 1 日時

令和7年8月29日（金） 午後3時～午後4時30分

### 2 場所

広島市役所本庁舎14階第7会議室

### 3 出席者

#### (1) 委員

伊藤 圭子（会長）、佐々木 緑（副会長）、加藤 和行、古森 公人、崎田 省吾、鉄村 忠基、友田 加世、西村 千賀子、林 千秋、原田 佳子、福井 国博（以上11名）

#### (2) 事務局（市）

環境局長、環境局次長、環境施設部長、埋立地管理担当部長、業務部長、環境政策課長、施設調整担当課長、埋立地管理担当課長、施設整備担当課長、業務第一課長、業務第一課指導担当課長補佐

### 4 次第

#### (1) 開会

#### (2) 議事

報告1 広島市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画の目標達成状況等について

報告2 広島市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画の行動計画に基づく施策の令和6年度実施状況等について

報告3 食品ロス削減推進計画に基づく施策の令和6年度実施状況等について

#### (3) 閉会

### 5 公開・非公開の別

公開

### 6 傍聴人の人数

1名

### 7 会議資料

〈会議関係〉

○ 令和7年度第1回広島市廃棄物減量化・資源化等推進審議会 配席表

○ 広島市廃棄物減量化・資源化等推進審議会 委員名簿

〈議事関係〉

○ 資料1 広島市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画の目標達成状況等について

○ 資料2 広島市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画の行動計画に基づく施策の令和6年度実施状況等について

○ 資料3 食品ロス削減推進計画に基づく施策の令和6年度実施状況等について

## 8 議事要旨

発言者	発言要旨
伊藤会長	・ 本日の議事は報告が3件である。事務局から説明をお願いする。
環境政策課長	【報告3件について説明】
伊藤会長	・ 報告の説明について、御意見、御質問等があれば承りたい。
西村委員	・ 資料2の事業番号43のごみの持ち去り行為防止対策の実施について、ごみステーション等に設置する持ち去り防止の看板の配布を行っており、制度開始時期は多くのごみ置き場で設置していた。これらの看板が経年劣化により、文字が消えて読みづらくなっているため、年度初め等の機会に配布案内を行ってほしい。
指導担当課長 補佐	・ 委員の御発言の通り、制度開始時期には多くの方に看板を配布していた。劣化等の状況を確認しながら、年度初め等で案内を行うことを検討したい。
伊藤会長	・ 現在、看板はどのように設置しているのか。
指導担当課長 補佐	・ 各環境事業所で配布の対応を行っている。
崎田委員	・ 資料1について、ごみ処理基本計画に掲げる3つの目標を全て達成していることは良い結果と思う。これらの結果をどのような形で公表するのか。良い結果であるため積極的に広報してほしい。
環境政策課長	・ 現時点では広報していないが、市ホームページ等で広報することを検討したい。
加藤委員	・ 市民全体に定着させるためには、小中学校、高等学校での教育が重要になっていくと思う。現在も小中学校、高等学校の児童、生徒に指導しているが、より充実させていくことで、将来のさらなるごみの減量につながると思う。 ・ 資料3の5ページの外出時の食品ロス削減の推進の「3010運動」について、会食に参加すると、会話を楽しんでいる間に、中締め時間になり、食事を食べる時間が無いことで食品ロスが発生している状況を多く見る。司会者からの3010運動のアナウンスが定着すれば、こういった食品ロスはかなり減るのではないかと思う。また、宴会場内での掲示も効果的であると思う。
環境政策課長	・ 「食品ロス削減協力店」には、ホテルも対象であるため、引き続き周知啓発を行い、食品ロス削減に取り組むホテルを増やしていきたいと考えている。また、宴会場での掲示の促進にも取り組んでいきたいと考えている。
原田委員	・ フードバンクの活動を行う中で、近年は生活困窮者が増えていると感じている。資料1を見ると、ごみの排出量が減少しているが、生活困窮による購買力の低下も影響していると思う。
福井委員	・ 資料2の事業番号8の小型家電リサイクルの促進について、ピックアップ回収とあるが、これはどういった回収方法なのか。 ・ 事業番号35の災害に対応したごみ処理体制の構築について、大規模災害時は近隣の自治体と連携することがあるかと思うが、何か協定のようなものは検討しているのか。
環境政策課長	・ 小型家電リサイクルのピックアップ回収は、廃棄物処理場に持ち込まれた小型家電を回収し、資源として小型家電リサイクルの認定事業者へ引渡すことで、リサイクルを行っている。
業務第一課長	・ 災害時の他都市との連携について、平成26年、平成30年と大規模災害が発生しているが、他都市から支援を受けるほどの状況ではなかったため、発生した災害廃棄物の一時保管場所の確保や運搬、処理は本市において行った。協定でいうと、本市が一般廃棄物収集運搬業の許可を出している事業者で構成される「広島市廃棄物処理事業協同組合」と協定を締結し、災害廃棄物の運搬の協力を得ることにしている。

発言者	発言要旨
佐々木委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料1の4ページの埋立量の推移について、令和2年度から事業ごみが大きく減少しているが、これは、事業系プラスチックごみが焼却されたことが影響しているということか。</li> </ul>
環境政策課長	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和元年度から令和2年度にかけて事業ごみの埋立量が大きく減少しているのは、令和2年度に産業廃棄物（廃プラスチック類）の埋立地での受入れを停止したことと、事業系プラスチックごみの焼却処理を開始したためである。</li> </ul>
佐々木委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料に書かれた説明だけだと、埋立地での受入れを停止した分のごみはどこに行ったのか分からないため、今説明されたことを資料に書いた方が良いと思う。</li> </ul>
環境政策課長	<ul style="list-style-type: none"> <li>産業廃棄物の受入れ停止分は、民間の産業廃棄物処分場で処理されている。また、資料の表現については改めて検討することとしたい。</li> </ul>
崎田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料3の2ページの学生との連携について、エコクッキングレシピや動画のコンテストを実施してはどうか。受賞した学生の就職活動や奨学金の申請に役立つことが期待できると思う。</li> </ul>
環境政策課長	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後の事業展開の際の参考とさせていただく。資料3の3ページに食品ロス削減に関する表彰制度もあるため、こちらに応募いただくことも一つの手ではないかと思う。</li> </ul>
原田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>表彰について、韓国では、フードバンクに食品を多く寄贈する事業者に対する表彰制度がある。こうした取組は、積極的に食品寄贈活動を行う事業者の大きなモチベーションになるため、こちらも併せてご検討いただきたい。</li> </ul>
友田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料2の事業番号35の災害に対応したごみ処理体制の構築について、市民向けの啓発チラシの配布とあるが、どのような内容が記載されているか教えてほしい。現物があれば見せていただきたい。</li> <li>事業番号44の福祉部局と連携したごみ出し支援の検討について、今後需要が増加していくことが予想できるが、現在何世帯が利用しているか教えてほしい。</li> </ul>
環境政策課長	<ul style="list-style-type: none"> <li>災害廃棄物についての啓発チラシは、各区役所等の窓口に設置している。現物が手元にあるためお渡りする。</li> </ul>
業務第一課長	<ul style="list-style-type: none"> <li>福祉部局と連携したごみ出し支援について、「ふれあい収集」を実施しているが、令和7年7月末時点で237世帯が利用しており、大型ごみ以外のごみを週1回戸別収集している。</li> </ul>
古森委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料1の3ページの政令市比較だが、さいたま市の減量が進んでいるように見えるが、要因は何か把握しているか。</li> <li>資料2の事業番号1の使い捨てプラスチック容器購入の抑制について、令和6年度の実施状況に買い物袋持参率が82.8%とあるが、ここ何年も80%台で変わっておらず、これ以上の向上はできないものかと思っている。 また、リユース食器の利用促進について、ゲートパーク等で開催する食品を提供するイベントで、リユース食器を使用することを条件にすることなどができないだろうか。開催する側からすればコストの増加が見込まれて難しいところもあるが、こういった取組を実施してみるのも良いことだと思う。</li> <li>資料2の事業番号9のペットボトル等のリサイクル率向上について、評価・今後の方針に、ペットボトルのキャップやラベル剥がしの障害者雇用の記載があり、障害者雇用自体は良いことだと思うが、まずは、排出時にペットボトルの正しい分別を徹底することが重要だと思う。</li> <li>資料2の事業番号47のサーマルリサイクルの継続実施について、焼却することで埋立量の減量に寄与すると思うが、実際にどういったものなのか。</li> </ul>

発言者	発言要旨
環境政策課長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ さいたま市の減量が進んでいる要因だが、他都市の具体的な状況までは把握できていない。</li> <li>・ 買い物袋持参率について、より向上させていきたい思いはあるため、引き続き啓発に取り組んでいきたい。</li> </ul> <p>また、リユース食器の利用促進について、市民向けにチラシの作成、配布を行っている。委員から御提案のあったゲートパークでのイベントでリユース食器を使用することだが、ゲートパークは、賑わいづくりや都心部の活性化等を目的に整備していることから、利用規約等に盛り込むことは難しいと思うが、ゲートパークで開催しているイベントの中には、環境に配慮し、リユース食器を使用しているイベントもあるため、こういったイベントが広まってほしいと考えている。</p>
業務第一課長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ペットボトルのリサイクル率向上について、従前から市民に対して、ペットボトルを捨てる際は、キャップとラベルを外して、水洗いしてから排出するようにお願いをしてきたところである。しかし、適切な排出方法が徹底できておらず、キャップやラベルが付いていたり、中身が残ったままのものがごみとして排出されており、これらはリサイクルできず残渣として処分されていた。そこで、ペットボトルのリサイクル率の向上を図るために、障害者雇用でキャップやラベル剥がしの作業を行っている。更なるリサイクル率の向上には、市民の皆様にも適切な排出方法を徹底していただくことが重要となってくる。また、選別施設の見学を積極的に誘致し、実際に不適切なごみが残渣になっている状況を見ていただくことで、適正な排出方法の徹底の必要性を認識していただくことも有効であるため、障害者雇用に加えて、選別施設の見学の誘致に力を入れていきたいと考えている。</li> </ul>
施設整備担当課長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ サーマルリサイクルの実施について、安佐南工場では、可燃ごみと事業系プラスチックごみを焼却した熱を利用した発電を行っており、発電した電力を工場内で使用することに加え、余剰電力の売却を行っている。</li> </ul>
伊藤会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 選別施設の見学について、加藤委員からもあったが若年層への教育が重要であるため、学校教育の一環で行われると良いと思う。</li> </ul>
原田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 資料2の事業番号44の福祉部局と連携したごみ出し支援の検討について、高齢化が進んでいる中で、戸別収集が増加していくことが予想され、お金や人員が多くかかるが、何か対策はあるか。</li> </ul>
業務第一課長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現在実施している「ふれあい収集」は、分別が行えない高齢者を対象に戸別収集を実施しており、今後、利用者数はさらに増加するものと認識している。その一方で、分別はできるが運べない高齢者に対しては、地域の共助の取組として「ごみ出しサポーター制度」をモデル事業として実施している。具体的には、ごみの持ち出しが困難になった高齢者と近隣にお住いのごみ出し支援を行っていただける方を市でマッチングし、ごみ出しの支援を行うものである。この事業が全市展開できるような段階になれば、持ち出しが困難になったことによる戸別収集の増加に対して、一定の抑制ができると考えている。</li> </ul>
伊藤会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 広島市は、市民・事業者・行政が一体となっており、ごみの減量に取り組んでいる点が特徴的であり、効果的な取組を実施してきた結果が、計画の減量目標達成につながったと思っている。引き続き、今後の方針として挙げたことを基に取り組んでいただきたい。</li> </ul>
伊藤会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 他に質問はないか。ないようであれば、本日の議事は終了する。</li> </ul>